

# 経営の体質へ鳴らされる警鐘



▲ 9月24日【JR東日本の「ワンマン運転」を考える院内集会】で発言される福島伸享氏

輸送サービス労組は、実施が計画・予定されている「長編成ワンマン運転」について、未然事故防止の観点や激甚化・頻発化する災害リスクへの対応、交通弱者への合理的配慮の視点などから、公益性のある鉄道事業としてJR東日本はどうあるべきなのかを考えるために院内集会を開催しました。

集会では、すでに実施されている「中編成ワンマン運転」で発生している事故・事象と解決されていない課題、さらには昨今発生している鉄道の安全を揺るがす様々な事故・事象、輪軸のデータ改ざん・隠蔽問題、新たなジョブローテーションといった専門性と社員のキャリアデザインやワークライフバランスを無視した人事・要員施策など、JR東日本の現状を報告した上で意見交換を行いました。

多くの方々から「重大事故（の発生）が容易に想像できる」「異常時に運転士1人で3,000人も乗客の対応を行うことなど考えられない」「公共交通として、利用者の「移動する権利」を守って欲しい」といった意見が出されました。また「ワンマン運転を止めるための法整備や、自治体で何かできることはあるか」「昨今の利益のみを追求するJR東日本の経営姿勢を見ると、国鉄分割・民営化が正しかったのか、国政の場でも議論する時期に来ている」と、JR東日本の経営に対する厳しい指摘や私たちへの力強いエールが出されました。

※ JR東日本は2025年春の常磐線各駅停車と南武線を皮切りに、山手線や京浜東北線、横浜線などでワンマン運転を行うことを予定している。

## TOPIC

安全・安心・快適な鉄道をつくり上げるために

### 駅頭ビラ配布を実施!



**最** 近の JR 東日本、何かおかしくないですか？という投げ掛けは、衆議院国土交通委員会での質疑で、JTSU 議員懇談会会員議員の福島伸享氏が齊藤国土交通大臣に幾度となく投げ掛けた言葉です。その投げ掛けを地域や利用者に行うビラ配布をいわき駅・赤塚駅・土浦駅・大宮駅・立川駅で行い、多くの方々からご賛同・ご声援をいただきました。私たち輸送サービス労組は“安全に安心して快適に利用できる鉄道の実現”をめざし、これからも地域や利用者をはじめとする多くの皆さんと手を携え、連帯していきます。

今から10年前、牛井チェーン店でのいわゆる「ワンオペ」が世間を騒がせました。長時間による1人勤務による過労が大きな問題となり、亡くなってしまう従業員も発生しました。鉄道業における「ワンマン運転」も長時間労働であり、運転士に対する多くの負担増など一歩間違えると、取り返しのつかない事故・事象が起ってしまう可能性があります。「安全第一」という言葉を経営する立場から破壊させないようにチェックする機能が今必要です。

編集後記